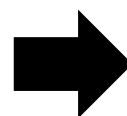


# 一般廃棄物処理基本計画見直し (令和3年3月)の主な内容

## 1 廃棄物処理に関する基本的な考え方

2 Rに優先的に取り組む。特に食品ロスやプラスチックごみの発生抑制のための施策を積極的に展開する。

発生抑制に取り組んだ上で排出される廃棄物については、再生利用等の資源循環を図る。

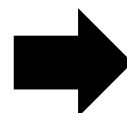


11頁参照

## 2 ごみ処理の課題

食品ロスや代替可能なプラスチックの発生抑制と製品を長く使用するといった意識の醸成を図る取組を一体的に進めることが必要。

プラスチックの分別回収については、国の法整備等の動向を注視しつつ、本市の処理施設の現状やリサイクル技術の進展、分別に伴う市民負担を踏まえ検討する必要がある。



28頁  
29頁参照

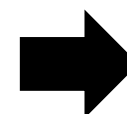
## 3 数値目標

### 【家庭系ごみ】

食品ロスやプラスチック削減を推進し、引き続き現在の目標の早期達成を目指す。(令和7年度までに一人1日当たり480<sup>グラム</sup>)

### 【事業系ごみ】

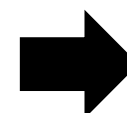
民間の生ごみリサイクル施設の稼働により市の施設に搬入されるごみが減り、既に現行の目標を達成したことから、同社に排出されたごみ量(約3,000<sup>トン</sup>)を現行の目標から減じた値を新たな目標値として設定。(令和7年度までに38,000<sup>トン</sup>)



36頁  
37頁参照

## 4 目標達成に向け実施する個別施策

基本計画見直しを踏まえ、上記の視点を盛り込んでいる。



38頁39頁  
40頁参照